

地域貢献につながる 助産師の活躍

お産停止のピンチを
チャンスに変える!



広域紋別病院

看護師長 浅野睦子



1990年滝川市立高等看護学院卒業、同年国家公務員共済組合連合会斗南病院入職。1997年より北海道立紋別病院（現・広域紋別病院）に勤務し、2011年に副看護師長、2014年に看護師長に就任、2015年より外科、整形外科、消化器内科、産婦人科の病棟看護師長として勤務。

「出産停止」という危機からの脱出 ～プライマリーな周産期をつくり出す 助産師への支援と部署づくり

● 当院および産婦人科病棟の概要

当院は、北海道オホーツク沿岸の紋別市に位置し、近隣5市町村共同（遠紋地域）による広域連合企業団で運営されている（図1）。2011年に北海道から移管され、2015年4月に現在地に移転した。許可病床数150床の急性期病院で、入院基本料10対1、二次救急医療や内科系・外科系の一般診療をはじめ、小児・周産期・人工透析・精神科医療を提供し、西紋の地域センター病院として医療の中核を担っている。

2018年4月以降、産婦人科の常勤医が不

在となり、非常勤医師2人が出張で外来診療を行い、出産は停止していた。産婦人科病棟は外科、整形外科、産婦人科混合で、看護師18人、助産師4人（うち非常勤2人）が配置され、一般36床中、LDR2床、褥室4床、NICU2床を設けたユニットマネジメント形式を導入している。

2017年度までは、産婦人科常勤医1人、助産師5人（うち非常勤2人）で、ローリスクな経産婦を対象に、年30件程度の出産に対応していた（図2）。介助は助産師1人が担当し、他科の患者を受け持っている看護師が1人サポートに就く。夜間・休日も同様の体制で行ってきた。

従来の助産師業務は、産婦人科外来での診

● 図1 遠紋地域



● 図2 年度別出生件数

